

広島大学

令和 8 年度 広島大学光り輝き入試
総合型選抜Ⅱ型

解答例・出題の意図等

文学部 人文学科 哲学・思想文化学コース
倫理学

科目名：小論文

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

令和8年度 広島大学光り輝き入試総合型選抜（Ⅱ型）
文学部人文学科 小論文問題 解答又は解答例 出題の意図等

分野	倫理学
----	-----

・解答例

問1

著者の分類によれば、規範倫理学の三つの理論と代表的な哲学者とは、1. 功利主義（行為功利主義、規則功利主義）：ベンサム、ミル、2. 義務論：カント、3. 徳倫理学：アリストテレスとなる。

問2

著者は、伝統的な道德教育として、1. 指導者が理解した道德的価値（公正・正義）を児童生徒に説き教える道德的指導教授、2. 行動を制御するために褒美や罰を用いる賞罰的指導、3. 良いモデルや健全な経験を通して性格を訓練する性格訓練を挙げる。しかし、1に対し、著者は、指導者が理解する道德的価値（公正）にずれが生まれ、偏った価値観を身に付けるため、多様な見方や批判精神を身に付け、比較衡量できる能力の必要を説く。2に対し、著者は、報酬と罰では倫理的利己主義を助長し、善意に基づいた行為とはいえないと批判する。3に対して、著者は、示される「良い性格」の型には思い込みや間違いもあり、道德は教えるというよりも獲得されるものであると考えている。

問3

行為を規制する道德的規範を取り扱い、性格を評価する規範倫理学に対し、著者は、「メタ倫理学」について、その規範倫理学のどのアプローチにおいても見出される前提やコミットメントを吟味する理論的立場であるという。つまり、そこでは道德性の基盤や道德的知識の主張そして道德言語（「善い」「正しい」「幸福」「理性」「動機」「正当化」「弁明」）の意味が問われることになる。

問4

本著作は、教科の道德的次元に注目することで、哲学（道德・倫理）と学校教育を結びつけることをめざしたものである。そこでは道德的課題に対して、互いに問いを出し、傾聴し、コミュニケーションをはかり理解し合うことで道德的探求が深められていく。著者によれば、こうした議論を通して互いに道德的敬意を払う中で、支持と批判とケア的思考が育成されるという。そのような倫理的実践を通して、インターパーソナルな協働的探求が可能となると考えられた。

問5

著者は、協働作業を通じた「倫理的探求の基本パターン」として、以下の流れを示している。①刺激：倫理的問題を含んだ状況→②アジェンダを設定：問いを探求→③提案：意見，提案，アイディアを共有→④推論：意味，含意，前提を引き出す→⑤評価：基準，証拠と反例に訴える→⑥結論：信頼できる結論，解答，解決に到達する。

令和8年度 広島大学光り輝き入試総合型選抜（Ⅱ型）
文学部人文学科 小論文問題 解答又は解答例 出題の意図等

分 野	倫理学
-----	-----

・ 出題の意図

問1 課題図書第3章「倫理学への手引き」の「規範倫理学の諸理論」に書かれた三つの理論の内容理解を問うものである。

問2 課題図書第2章「道徳的価値〔を身に付けるため〕の教育」の「道徳教育に対する伝統的なアプローチ」について、その理解を問うものである。「伝統的アプローチ」の理解に加え、著者の批判的立場も理解してほしい。

問3 課題図書第3章「倫理学への手引き」の「メタ倫理学」に書かれた内容の理解を問うものである。

問4 この問いは、課題図書冒頭や序の部分から課題図書の全体的な方向性（著者の主張）を問うものである。

問5 課題図書第4章の冒頭部分に示された「倫理学的探求の基本パターン」の理解を問うものである。